

研究課題	地域の子育て支援におけるペアレンティングプログラム活用の試み		
氏名	岩崎 美奈子	所属 総合教育科学系 教育心理 学講座	職名 講師
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）			
<p>【問題と目的】</p> <p>近年、子育て困難を抱える世帯が増加し、予防的な子育て支援の必要性が高まっている。特に養育者支援プログラムは要支援児童の養育者に対して一定の効果が示されている一方で、困難が顕在化する前の一般家庭を対象とした予防的アプローチとしての効果検証は国内で十分に進んでいない。このため、地域でどのように養育者支援プログラムを導入し、安定した養育環境の形成に寄与できるかについての実証的知見が不足している。本研究では、地域の子育て世帯を対象として、ポピュレーションアプローチとして実施可能な養育者支援プログラム CARE を導入し、その効果を明らかにすることを目的とした。具体的には、子育て不安の軽減、孤立感の緩和、地域的つながりの形成など、子育てを取り巻く心理・社会的指標にどのような変化が生じるかを検証することで、予防的子育て支援の有効な在り方を提示することを目指した。</p> <p>【方法】</p> <p>東京学芸大学近隣の住民を対象に参加者を募集し、同意が得られた者を実施群20名、待機群20名に割り付けた。解析には、事後データが得られた実施群12～13名、待機群14名を用いた。両群にはプログラム実施前と3週間後に同一内容のwebアンケートを実施した。調査では、地域コミットメント、孤独感、ソーシャルネットワーク、抑うつ傾向、育児ストレスの5尺度を使用し、合計得点を分析対象とした。解析には、事後得点を従属変数、群を独立変数、事前得点を共変量とする共分散分析（ANCOVA）を用いた。データは匿名化し、東京学芸大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（受付番号903）。</p> <p>【結果】</p> <p>分析の結果、育児ストレス総得点において、実施群が待機群より有意に低い得点を示し（<math>p=.001</math>）、CAREは育児ストレス全体の低減に効果を及ぼすことが示された。下位尺度では、PSI子ども得点に有意傾向（<math>p=.051</math>）がみられ、PSI親得点は有意ではなかったものの、いずれも実施群が低い方向の変化を示した。一方、地域コミットメント、孤独感、ソーシャルネットワーク、抑うつについては群間に有意差はみられなかった。短期間の測定で大きな変化が生じにくい領域であること、またサンプル数の影響も考えられる。</p> <p>【考察】</p> <p>本研究により、CAREの導入が育児ストレス、とりわけ総合的なストレスの低減に寄与する可能性が示された。親と子どもの下位尺度では個別の有意差は得られなかったものの、両尺度で小規模な改善がみられ、その積み重ねが総得点において明確な群間差として表れた点は注目に値する。これは、子育て初期にみられる多面的な心理的負担が緩和され、親子関係全体のストレス低下につながったことを示唆するものである。一方、地域的つながりや孤独感、社会的ネットワークといった社会的指標には変化がみられず、これらの領域は短期間の介入では変化しにくく、継続的な支援や関係構築を通して効果が表れる性質を持つことが考えられる。以上のことから、本プログラムは予防的支援としての有効性が示唆されており、地域での継続的な実施や対象者の拡大を通じて、一般化可能性や長期的効果の検証を進めていく必要がある。</p>			
【研究成果発表方法】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本子ども家庭福祉学会第27回全国大会にて口頭発表（エントリー予定）</li> <li>・A Community-Based Pilot Trial of the CARE Program: Preventive Effects on Parenting Stress Among Caregivers., M. Iwasaki., Discover Public Health（執筆中）</li> </ul>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。